

I 自分たちのやませみを

つくるために

自分たちのやませみをつくろう

～ダイナミックな「材」を活かした活動を～

やませみへやってくる子どもたちの胸に秘めた思い。

子どもたちの成長を願う先生方の思い。

やませみはこの思いにこたえ、11年間歩み続けてきました。

やませみが位置する藤野地域では、誰をも魅了するありのままの自然が守られています。また、豊かな生活となるよう人々の間で脈々と受け継がれてきた文化があります。

自然と文化。やませみには、このダイナミックな「材」があります。

自然の中に身を置く心地よさ、はじめて知る自然のおもしろさ、自分の手でつくり味わううれしさ、地域の人とふれあう楽しさ……。 「材」を活かし、子どもたちがいきいきと学ぶ姿を想像してみましよう。

また、子どもたちが互いに助け合ったり、できた喜びを分かち合ったりしながら、協働することを通して成長する姿を想像してみましよう。

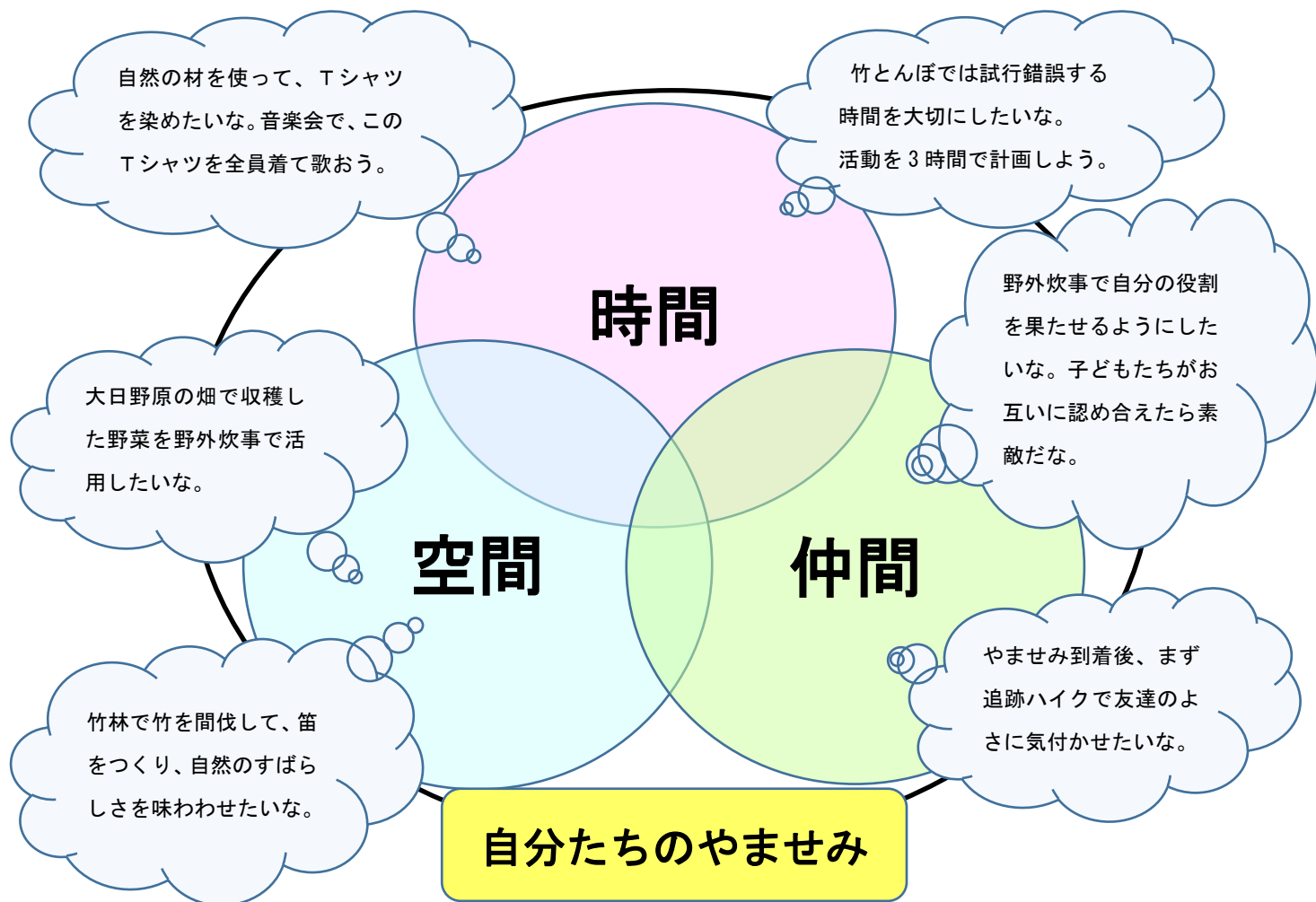
やませみでは、ダイナミックな「材」を活かした豊かな直接体験活動を通して、「自分たちのやませみ」をつくりあげていくのです。



1. 3つの「間」を意識する

やませみでの活動を通して、先生方は子どもたちにどんな姿を期待するでしょうか。「自然を大切にしたい」「学年や学級の絆を深めたい」など、ねらいをもってやませみ利用を考えることが大切です。ねらいにせまるために、やませみでは、3つの「間」（時間・空間・仲間）を意識することが大切であると考えます。

次の図に示しているように、3つの「間」のそれぞれについて、活動のイメージをもったり、子どもたちのいきいきとした姿を思い描いたりすることで、活動全体の構想を膨らませることができます。このように「自分たちのやませみ」をつくっていきます。



「時間」… 事前・事後の活動を見通して意図的に計画することで、活動をより意欲的に取り組ませることができます。

「空間」… やませみの施設や周辺の自然環境だけでなく、学校近くの地域を活用して事前に学習を深めるなど、空間を広くとらえることで、やませみでの活動を深めることができます。

「仲間」… 活動を通して、友達と助け合い、協力し合って、互いの絆を育むことで多くの学びを生み出すことができます。

2. ダイナミックな「材」を活かし、協働の場面を設定する

やませみの周りには豊かな自然と様々な文化があります。この2つをやませみで行われる直接体験活動で活かすダイナミックな「材」と呼んでいます。また、体験活動において、友達とのかかわりも大切にしています。このかかわりを「協働」と呼んでいます。

学校のねらいに沿って、ダイナミックな材と協働をどのように活かし、取り入れるのが、「自分たちのやませみ」をつくるために大切だと考えています。

(1) ダイナミックな「材」

○地域の広大な自然

やませみの位置する藤野地域には、沢井川、藤野 15 名山である陣馬山や鷹取山、日野地区の竹林、ここに息づく多様な動植物など、ありのまま残る自然があります。また、水源の森林として整備される山々や、1年間を通して多くの作物を収穫できる大日野原の畑など、人々の手によって守られてきた自然があります。

○受け継がれてきた文化

豊富な自然を活かし生活をよりよくするために生み出されたものづくり、日常生活やお祝い事、人々の生活の中で生まれた食文化、江戸時代の暮らしが感じられる歴史的文化遺産など、人々によって受け継がれてきた様々な文化があります。また、この文化を引き継いできた藤野地域の人々との出会いがあります。

(2) 協働の場面

直接体験活動において、子どもたちが協働することで、友達と活動することの楽しさを感じることができます。また、協働の体験活動を通して、友達のよいところを見つけたり、互いに認め合ったりすることもできます。こうして、友達との仲が深まると、学年・学級で課題を達成できた時には、喜びがさらに大きくなり、分かち合うこともできるようになります。

やませみが考える「豊かな直接体験活動」の定義

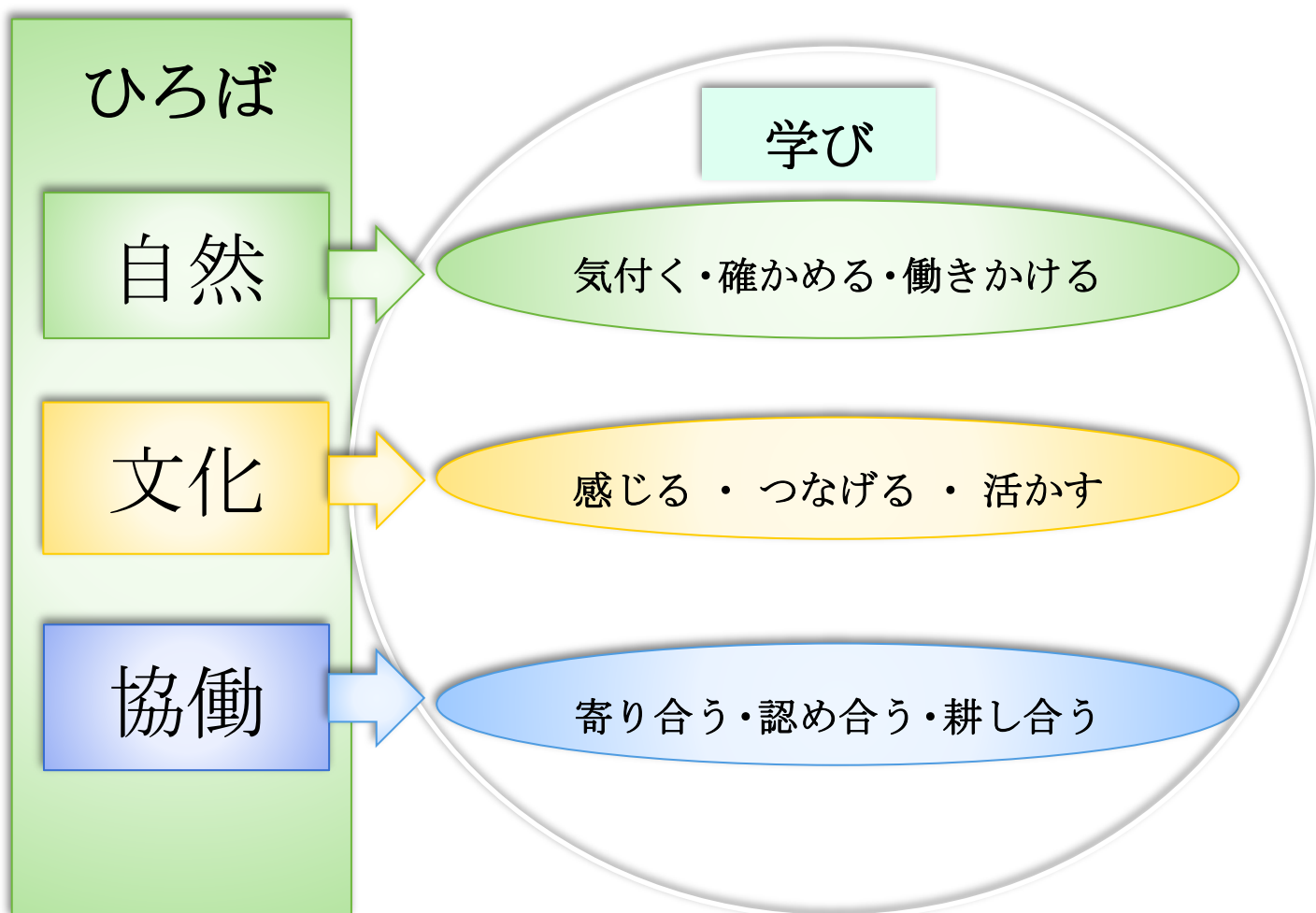
- ① 学習素材と主体的にかかわり、新たな疑問や深い理解につながる活動
- ② 時間と空間を共有し、自他のよさに気付き、仲間との絆が育まれる活動
- ③ 自然に対する理解を深め、自然へ自ら働きかける活動

3. ねらいから学びを考える

やませみでは、子どもたちの思いや実態、学校のねらいに沿う体験活動にするために、体験活動の「ひろば」を3つに分けています。次の図で表しているように、「自然」「文化」「協働」を学びの入口として、実際に活動する内容を考えていきます。さらに、それぞれのひろばにある体験活動を、3つの学びから選ぶことができます。例えば、「自然」のひろばでは、「気付く」「確かめる」「働きかける」と3つの学びがあります。

子どもたちの実態を踏まえ、「どんなねらいをもち、何を学ばせたいか」を基にして、それぞれの学びに応じた体験を考えることができます。

(1) 3つの「ひろば」と3つの学び



(2) 「ひろば」ごとの3つの学び

<自然のひろば> ~広がる自然にふれ、向き合い、働きかけて~

気付く 豊かな自然にふれることを大切にしています。体と心を使って、思いきり自然と遊び、たくさんの気付きと出会うことができます。

確かめる 豊かな自然の「材」を用いて、ものづくりなどの活動を行うことができます。さらに学校での学びへとつなげることができます。

働きかける 自然とともに生きる人々の知恵や工夫を学び、自ら働きかけることで自然を守り育てる活動を行うことができます。

<文化のひろば> ~古来より築き上げてきた文化を、地域の方々とのふれあいを通して~

感じる この地に伝わる郷土食を地域の方々と一緒に作りながら、伝統的な食文化について考えたり、芸術や芸能とふれあい、先人の知恵や工夫のすばらしさを感じたりすることができます。

つなげる 人のくらしや時代背景を総合的に学んでいきます。総合的な学習の時間、社会科や家庭科の学習につなげていくことができます。

活かす エネルギーや資源の大切さを学びます。体験を通して、子どもたちはこれからの生活、生き方に活かせる視点を見出すことができます。

<協働のひろば> ~やませみに来る前から「協働」の始まり、新たな「協働」が始まる~

寄り合う 友達と一緒に体を動かしたり額に汗したりする活動を通して、コミュニケーションを深め、仲間といることの楽しさ・心地よさを味わうことができます。

認め合う ひとつの場所に集い、同じ目標をもって活動することを通して、仲間がいることのすばらしさを実感し、それまで気付かなかった友達の新たな一面に気付くことができます。

耕し合う グループやクラスの友達と、課題達成のため、共に考えたり、互いの考えを受け止めたりして、思いやることができます。活動を通して、これまでの仲をさらに深めることができます。